

一般質問通告書

佐野市議会議長 様

受付	番号	16
	令和	2年 2月19日
	午前・午後	2時55分

議会名	令和 2年 第 1回 佐野市議会定例会		
発言者	議席番号	3番	菅原 達
答弁を求める者 (選択してください)	<input checked="" type="checkbox"/> 市長 ・ 副市長 ・ 教育長 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 担当部局長		
一般質問時に使用する資料の有無 (選択してください)	<input checked="" type="checkbox"/> あり (資料提示 ・ 資料配付 ・ <input checked="" type="checkbox"/> モニター使用)		
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)		
<p>1. 命を守る治水について</p> <p>(1) 越水による堤防決壊を防ぐための堤防強化の重要性と応急的に対応する必要性について</p>	<p>① <u>越水による堤防決壊を防ぐ重要性について</u> 洪水には、「越水 (溢水)」と「決壊」があり、両者には、命に及ぶ危険度合い、被害の度合いに大きな違いがある。命を守り浸水被害を最小限に抑えるためには、「決壊」を防ぐことが重要である。 また「決壊」の約8割が「越水」による破堤であり、越水による堤防決壊 (越水破堤) を防ぐことが重要である。 越水による堤防決壊を防ぐ重要性についてどのように考えるのか、伺いたい。</p> <p>② <u>越水による堤防決壊を防ぐための堤防強化の重要性と応急的に対応する必要性について</u> 越水破堤を防ぐためには、堤防の内側の法面だけでなく、天面及び堤防外側部分の裏法までを遮水シートやコンクリートなどで覆う堤防強化が重要である。 この手法は大掛かりな工事を伴わず、地元の業者でも対応が可能であることから、遮水シートの上に連節ブロックを並べるなどにより、応急的な仮復旧に対応することも技術的には可能である。</p>		

(2) 洪水エネルギーの分散と遊水機能の重要性について

2. 災害を契機とした『支え合いのまちづくり』の推進について

(1) 災害弱者（要配慮者）を守るための協力体制の構築について

越水破堤を防ぐための堤防強化の重要性と応急的に対応する必要性を踏まえ、比較的容易な手法により応急的な仮復旧にも対応可能である堤防強化のあり方をどのように捉えているのか、伺いたい。

① 洪水エネルギーの分散と遊水機能の重要性について

堤防決壊への対策として、一般的に河道掘削や堤防のかさ上げなどの改良工事を加えることで洪水が起こりにくくなる反面、今まで以上に洪水のエネルギーが河川の中に閉じ込められることになり、それが耐え切れずに破堤に至った際、壊滅的な被害に及ぶ危険性が高まることになる。

なので、先の破堤を防ぐための堤防強化が重要であった訳であるが、それと合わせ、洪水エネルギーを集中させずに分散させることも、壊滅的な被害の危険性を軽減させるうえで、極めて重要であると言える。

そこで、洪水エネルギーを分散させるための流域対策として、河川流域に遊水機能を持たせる重要性をどのように考えるのか、伺いたい。

① 災害時における雇用主の災害弱者（要配慮者）への配慮の必要性について

障がい者や高齢者、妊婦などの災害弱者にとって、災害時に自身の身の安全を確保するためには、余裕を持った早めの対応が必要である。

災害関連情報などをもとに、職場からの早めの帰宅や避難所への避難などが必要と判断された場合には、雇用主は災害弱者である雇用者に対し、暗くなる前や交通機関が使えるうちに避難ができるような配慮をすることが求められていると言える。

災害時における雇用主の災害弱者への配慮の必

<p>(2) 災害弱者に焦点をあてた地区防災計画の策定について</p> <p>(3) 災害を通して知るボランティアの重要性について</p>	<p>要性についてどのように考えるのか、伺いたい。</p> <p>② <u>民間の福祉避難所による災害弱者（要配慮者）の受け入れ体制の整備について</u></p> <p>内閣府の『福祉避難所の確保・運営ガイドライン』によると、「市町村は、福祉避難所として利用可能な施設を洗い出し、対象となる者の数や現況等を踏まえ、指定要件、指定目標を設定し施設を指定する。そして当該施設管理者との間で十分調整をし、福祉避難所の指定に関する協定を締結する」とある。</p> <p>指定避難所への避難が難しい要配慮者にとって、福祉避難所への避難は命を守るうえで極めて重要であり、民間施設による協力は必要不可欠と言える。</p> <p>民間の福祉避難所による災害弱者の受け入れ体制の整備の現状と課題について伺いたい。</p> <p>① <u>災害弱者に焦点をあてた地区防災計画の策定について</u></p> <p>地区防災計画の策定については、以前からその必要性を訴えてきたが、実際に災害を経験すると、最も支援を必要とするのは災害弱者であり、そこに焦点をあてた地区防災計画を策定する必要があることを実感した。</p> <p>災害弱者自身も含めた地域住民が主体となり、災害弱者に焦点をあてた支援体制を盛り込んだ地区防災計画を策定すべきと考えるがいかがか、伺いたい。</p> <p>① <u>災害時にボランティアが果たす役割の重要性について</u></p> <p>災害発生時、災害ボランティアセンターの開設により、全国各地から経験豊富なボランティアが駆け付けくれ、また、初めてボランティアに参加した市民など、多くのボランティアの協力により、大量のニーズへの対応が可能となった。</p>
---	---

災害時に、被災者の一日も早い復旧支援のために果たすボランティアの役割の重要性について、どのように考えるのか、伺いたい。

② 災害に対応するボランティア団体の重要性について

災害ボランティアセンターでの継続的で献身的な活動の中で立ち上がったボランティア団体は、地元のボランティアを中心とし、同センターの運営側にも関わりながら、全国のボランティアとの交流を広げ、絆を深めてきた。

今後、ニーズの収束による同センター閉鎖後も、地元被災者へ寄り添い続ける体制を築き、またいつ起こるとも知れない災害に備えた人材確保と育成、ならびに、全国のボランティアとのネットワークの維持拡大、他の被災地域へのボランティア派遣など、同団体がこれからも災害対応の中で果たす役割の大きさに期待するとともに、団体を組織化した意義のひとつがそこにあるものと考えている。

災害に対応するボランティア団体の重要性についてどのように考えるのか、伺いたい。

③ 災害の中で芽生えた善意の大切さについて

多くの犠牲を強いた未曾有の災害が私たちに気づかせてくれたもの、それは、「人が誰かのために善意を尽くすことで、立ち上がる勇気と希望を与えることができる」ということであり、「善意は波及する」ということであると感じている。

災害を契機として組織化されたボランティア団体ではあるが、同団体が目指すのは、災害時の活動に留まらず、平時からさまざま地域課題にも目を向け、地域に根差し、市民に寄り添いながら、お互いさまの精神で安心して暮らすことができるまちを目指すことであり、「ずっとこのまちに住み続けたい」と言ってもらえるまで活動を継続することだと考えている。

災害の中で芽生えた善意からなる同団体が、その芽を大切に守り育て、地域の中で大きく広げていけるのは、多くの市民が痛み、多くの善意が芽

<p>(4) (仮称)「支え合いのまちづくり条例」の制定について</p>	<p>生えた今しかなく、市としてこの流れを後押ししていくべきと考えるが、いかがか、伺いたい。</p> <p>① <u>(仮称)「支え合いのまちづくり条例」の制定について</u></p> <p>ここまで、災害を契機とした『支え合いのまちづくり』の推進をテーマとし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における雇用主の災害弱者への配慮 ・民間の福祉避難所による災害弱者の受け入れ体制の整備 ・災害弱者に焦点をあてた地区防災計画の策定 ・災害時にボランティアが果たす役割の重要性及び災害の中で芽生えた善意の大切さ <p>などについて確認させていただいた。</p> <p>支え合いのまちづくりを推進するためには、企業、民間施設、市民、行政、全てが共通理解のもとで協力し合う必要があるが、その動機付けの拠り所となる「共通理念」を市として定める必要があると考える。</p> <p>そこで、(仮称)「支え合いのまちづくり条例」を制定すべきと考えるが、いかがか、伺いたい。</p>
--------------------------------------	--